

the People

元気なまちには 元気な主張を続け
元気に行動する 市民がいる

the people (ザ・ピープル)
2017年 10月発行

発行：特定非営利活動法人 ザ・ピープル
代表者：吉田 恵美子
所在地：福島県いわき市小名浜字蛭川南5-6
タウンモールリスポ内

TEL:0246-52-2511 FAX:0246-38-9538
E-mail: the-people@email.plala.or.jp
URL: http://npo-thepeople.com/



新活動拠点整備に向けて

来年1月15日、いわき市小名浜にある商業施設タウンモールリスポが閉館します。それに伴い、館内で営業していたピープルのチャリティーショップ「PCCリスポ店」と本会の事務所が退館せざるを得なくなります。そこで、ピープルでは、これまで小名浜地区復興支援ボランティアセンターを開設していた場所に、事務所や店舗の機能も集約し、新活動拠点として整備を行うことにしました。

これまでプレハブの仮置きであった施設に基礎工事を施し、地域の方々が集って交流を促進できるように地元のスギ材でウッドデッキも設けることにしています。その建設費は自己資金で賄うことを計画していましたが、建築費の高騰のため皆さんからの応援も頂きたいと、このほどFAAVO磐城国でのクラウドファンディングにチャレンジすることにしました。期間は10月1日～12月15日の75日間。支援をしてくださった方々への返礼品として、コットンパイプや工房いぶるのリメイク品。関連団体であるいわきおとんとSUN企業組合のふくしまオーガニックコットンプロジェクトで育てた茶綿の手ぬぐいやバスタオル。そして、コットン農家さんのお野菜セット等、色々なメニューを取り揃えています。ありがたいことに、これまでに60%まで支援が集まっています。

是非、お力添えのほどよろしくお願い申し上げます。なお、インターネットでの取り扱いの難しい方は事務局までお尋ねください。お手伝いをさせていただきます。



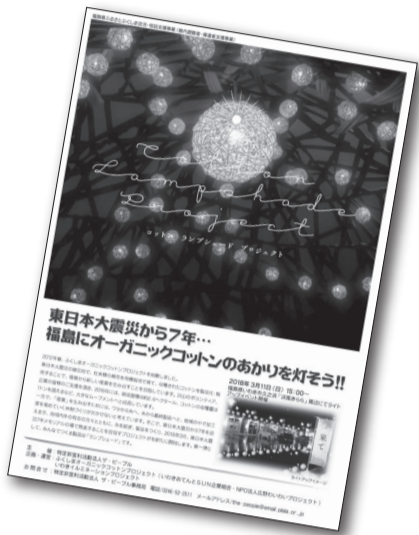
コットンランプシェードプロジェクト動き出す

ふくしまオーガニックコットンプロジェクトでは、現在では繊維製品を生み出す全ての加工を地域外の工場で行っています。その部分を担っているのが、連携団体であるいわきおとんとSUN企業組合コットン事業部です。

しかし、私たちはプロジェクトのスタート時点から、栽培されたコットンを地域の中で製品に加工できるような技術を獲得したいと考えてきていました。そして、ピープルでは、女性の手仕事となる糸紡ぎの技術を日常生活の中に取り入れやすい形にした糸紡ぎの道具、チャルカを長野県の本職職人の協力のもと開発し、糸紡ぎのムーブメントを生み出そうとしています。地域内で催されるイベント会場などで、糸紡ぎに興じる子供たちの姿を目にされた方もいらっしゃるかもしれません。

そして、皆で紡いだ糸を使って最初に生み出す製品。それは、コットンランプシェードです。風船を膨らませた周りにコットン糸を貼り付け、中の風船を割って代わりにLEDのライトを入れ、自然エネルギーでそのライトを灯そうというものです。市内四倉町上柳生地区でコットン栽培を行ってくださっている福島裕さんと、その仲間でコットン栽培から糸紡ぎ、織物作りまで進めようと頑張っておられる「織姫の会」の皆さんを中心に、たくさんの糸を紡ぎ、ランプシェードを作る作業が進められています。

出来上がったランプシェードを灯すイベントは、来年3月11日、震災から丸7年のメモリアルデイを迎える久之浜地区で開催することが計画されています。イベントの名前は、「つむぐ・ともす・かなでる ふくしまメモリアルライトアップ2018 in 久之浜」。ピープルがこの春からチャリティーショップを開設している商業施設、浜風きらら周辺での開催を予定しています。詳細は会報の次号で詳しくご案内します。どうぞお楽しみに!



みんなの畑収穫祭

11月25日(土)、今年のコットンの収穫を祝う「みんなの畑 収穫祭」が行われます。毎年、秋の収穫シーズンは、楽しみなものです。今年は長雨の影響で心配な日々が続いています。圃場によっては、昨年に比べ1ヶ月以上収穫開始が遅れていたりもしています。

そんな中ではありますが、収穫はやはり心躍る瞬間です。春から毎月集まってコットン畑「みんなの畑」のお世話を買って出てください。富岡町をはじめとする避難者の皆さんと、収穫を喜び合う機会を設けようと、今年も収穫祭を企画しているのです。

当日、午前中は小名浜上神白館下のコットン畑において皆でコットン収穫を楽しみます。昼食時からは会場を永崎団地・下神白団地集会所に移し、焼きそばや焼き鳥のお昼とミニステージを楽しむことになっています。そして、午後はコットンランプシェード作りのワークショップも催されます。参加費は無料です。

たくさんのおみなさんのおいでをお待ちしています。

なお、この事業は福島県「ふるさとふくしま相談・交流支援事業」の一環として催されます。

全国コットンサミットをいわきで!!

東日本大震災の年から、「全国コットンサミット」という事業が国内のコットン栽培、コットン関係の繊維産業地域で催されています。これは、震災を契機としてコットンを国内で栽培することに目が向けられることが多くなってきたことから、その流れを促進しようと企画されているものです。これまでに、奈良県広陵町、鳥取県境港市、愛知県蒲郡市などで開催されてきました。今年も兵庫県加古川市での開催です。いずれの地も、長い伝統を有する地域です。



この「全国コットンサミット」を2018年は福島、それもいわきで開催することが計画されています。昨年度のサミットの中で日本オーガニックコットン協会によるオーガニックコットンアワード大賞をふくしまオーガニックコットンプロジェクトとして受賞したことが引き金となって、スタートした計画です。来年10月には、全国各地でコットンを育て、製品を生み出している関係者がいわきに集まり国産コットンの将来について熱く語り合うこととなります。今年の加古川サミットの最後には、大会旗の引き継ぎも行われことになっています。来年のサミットに向けてスタートです。

最近の台風は巨大化して来て不気味な感じである。オーガニックコットンの収穫時期は台風情報に特に敏感となる。折角収穫の応援に来てくださるのに雨では本当に気の毒。そのため前日の天気予報を見るときは祈る思いである。収穫時期、お天気が続けばふつととした綺麗な綿が採れるが、雨が続きと実が弾けないため収穫は減少してしまう。台風と言えは必ず影響を及ぼすのが小学生の登校問題。台風ばかりではない大雪の予報が出れば休校となる。子供たちの安全を第一に休校を決定した教育委員会に対し失礼だが、当日の朝には日本晴れといった具合で空振りになってしまったことが何回かある。父兄が判断するのはなく行政が判断を下すことが多くなった。社会状況の変化は驚きであり難しい時代になったものだ。つむぐ・ともす・かなでる。先日近くに住む娘から用事ができたので孫を学校の近くまで車で迎えに行くと欲しいとの依頼があった。行ってみると何と車が列をなしている。こんな大勢用事がある方ばかりなのかと不思議に思っていたら雨が降って来たための迎えの車だと分かった。いやいや普段もこうした光景だとの事。つむぐ・ともす・かなでる。前年の事だが、強い雨の日に雨は降って出たが、出勤してまもなく外に目をやるとパケツを引く繰り返したような豪雨になっていた。この雨のなかカッパを着て手を繋いで歩いて行く小さな母と娘の姿が目につく。慌てて家に電話を入れた。「凄いやんなので今日は優子ちゃん休ませて下さい」と。当時娘は小学1年生。自宅から歩いて10分程の駅前に養護施設の通園バスが迎えに来ていた。毎日の送迎を喜んで引き受けてくれた80歳の義母。嫁の頼みなのだから「そうです、大変ですから休ませませよ」という返事があると思っていたがそうではなかった。「つむぐ・ともす・かなでる」の優子ちゃんにとって鍛錬になるんです。心配しなくていいですよ。母の強さと優しさに涙がこぼれた。受話器を抱えたまま深々とお辞儀をしていた私だった。最近、こうした「鍛錬」という言葉は死語になりつつあるのではと思つた。「叱る事」と「励ます事」の勘違い。そして使う側も受け止める側もその捉え方を混同してしまっているように感じられる。「雨・モマケズ・風・モマケズ」の宮沢賢治の詩を語っているだけの生き方をしているまいか。日々小さな事であってもどう行動に移すか。体験しながらどう身につけていくか。日々の鍛練こそ大切だと思つた。親も子も家庭も学校もそうした実践こそ第一と捉え生活しなければと呟いた私である。(甘南備)